

九州高校総体

全九州高校体育大会（九州総体）は16日、各地で17競技を行った。レスリングは男子団体を行い、浦添工業が決勝で玉名工業（熊本）に5-2で勝って3連覇を飾った。陸上（全国高

校対校選手権南九州地区予選）は女子内盤投げで中村枝理子（嘉手納）が42kg01で優勝、本村夏鈴（那覇西）も35kg37で2位に入った。このほか男子走り幅跳びの藤下祐人（中部商）が6ft87の4位、同ハンマー投げの大嶺権也（那覇西）が6位に入り、全国高校総体出場を決めた。

重量挙げは62kg級で1年生の宮本昌典（沖繩工）がトータル219kgで優勝。柔道団体決勝で男子沖尚は大牟田（福岡）に2-3で惜敗も、準優勝だった。ハンドボールは男子興南と女子那覇西が、ともに準決勝に進出した。バスケットボールは女子西原が準決勝に進んだ。卓球団体は男女兼天間と女子前原が8強入りした。

▽男子団体1回戦
浦添工 7-0 佐指鶴岡（天分）
北部農 4-3 日本文理大（天分）付

▽同種々決勝
浦添工 5-2 宮崎日大

浦工貫禄3連覇

春の全国選抜を制した浦添工が、貫禄勝ちで九州3連覇を達成した。それでも屋比久保監督は「技を研究されていた。瞬時に判断してさばかないといけないのに、もたもたしてしまっただ。このままでは全国で勝てない」と不満顔だった。

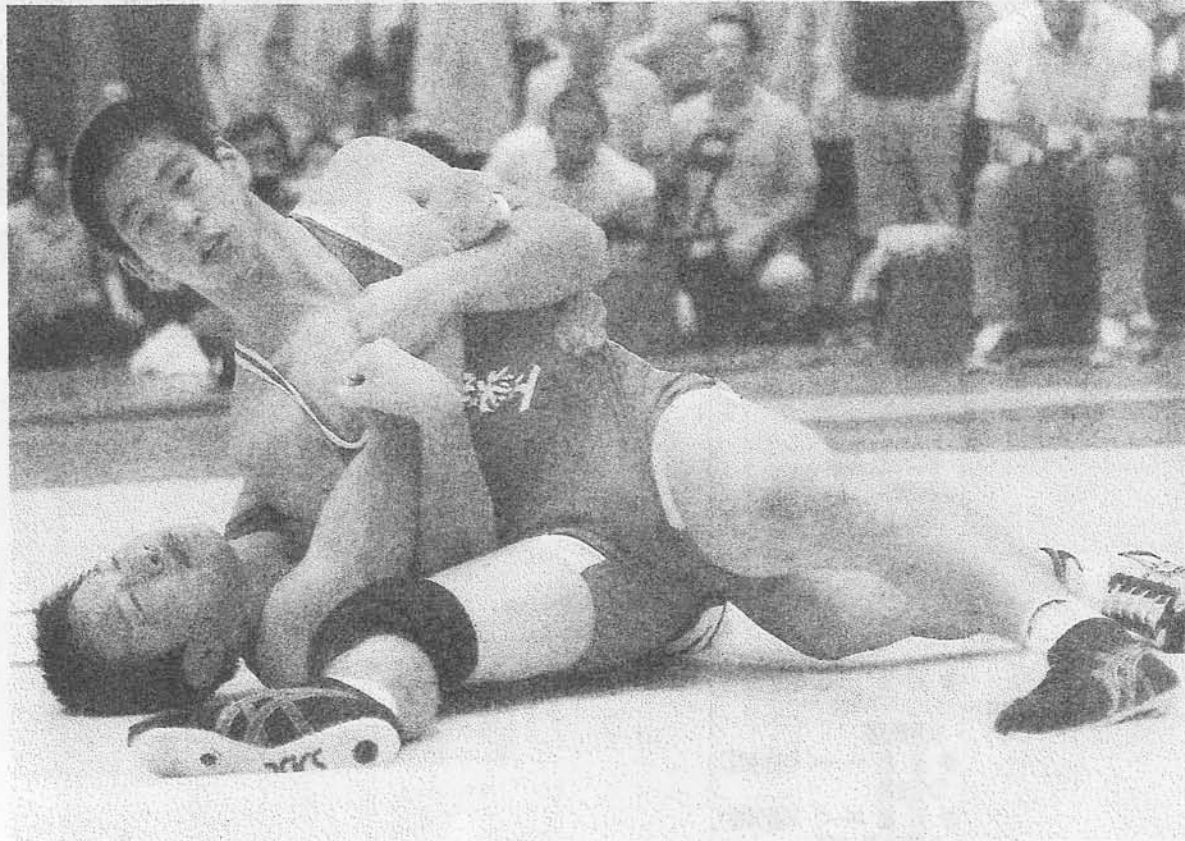
玉名工（熊本）との決勝は5-2。与那覇竜太主将は「選抜優勝して追われる立場で大変だよ」と周囲から言われた意味が分かった」と気を引き締めた。

健闘

敗れた新垣忠勝は「守りに入る相手に合わせてしまっって、攻めきれなかった」と反省。続く個人戦では、最終日の準々決勝に勝ち進んだ。「個人で、一つでも上にいき全国につなげた」と気持ちを切り替えた。

全国総体まで一カ月余。与那覇は「これからが大仕事。とれだけ修正できるかにかかってくる」。悲願の全国総体団体優勝に向け、決意を新たにしていた。

瞬時の判断 全国へ課題



団体決勝 浦添工一玉名工 66kg級屋比久翔平（上）が攻めて勝つ＝熊本県桃田運動公園総合体育館

▽準決勝
浦添工 5-1 島栖工（佐賀）

▽同決勝
浦添工 5-2 玉名工（熊本）

